



教育事業名	平成28年度 教育事業 <h1 style="text-align: center;">ジオパーク防災キャンプ</h1>													
事業の趣旨	<p>自然災害に伴うライフラインの途絶えた中で、行政の支援が始まる72時間を生き残るために、電気やガスに頼らないサバイバル体験を行い、仲間と協力したり知恵を出し合ったりすることで不便を快適に変えることを実感する。災害時にも他人任せになったり悲観したりすることなく、自助・共助のできる青少年を育成する。</p>													
対象者	小学5年生から大学生までの児童・生徒													
実施期間	平成28年9月17日（土）～平成28年9月19日（月）2泊3日													
参加者 （人数／定員）	21名／20名													
活動プログラム	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="width: 33%;">9月17日〔土〕</th> <th style="width: 33%;">9月18日〔日〕</th> <th style="width: 33%;">9月19日〔月〕</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>12:00 開講式</td> <td>7:00 配給食体験</td> <td>7:00 炊き出し体験</td> </tr> <tr> <td>13:30 アイスブレイク ロープワーク （地震発生） 津波シェルターへ避難</td> <td>8:30 帰宅難民体験 11:30 カートンドッグ 15:00 ドラム缶風呂体験 16:00 サバイバル飯炊き</td> <td>10:30 振り返り 12:00 昼食 13:30 閉講式 解散</td> </tr> <tr> <td>17:30 防災食体験 20:00 津波シェルター泊</td> <td>19:30 停電体験 20:30 就寝</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		9月17日〔土〕	9月18日〔日〕	9月19日〔月〕	12:00 開講式	7:00 配給食体験	7:00 炊き出し体験	13:30 アイスブレイク ロープワーク （地震発生） 津波シェルターへ避難	8:30 帰宅難民体験 11:30 カートンドッグ 15:00 ドラム缶風呂体験 16:00 サバイバル飯炊き	10:30 振り返り 12:00 昼食 13:30 閉講式 解散	17:30 防災食体験 20:00 津波シェルター泊	19:30 停電体験 20:30 就寝	
9月17日〔土〕	9月18日〔日〕	9月19日〔月〕												
12:00 開講式	7:00 配給食体験	7:00 炊き出し体験												
13:30 アイスブレイク ロープワーク （地震発生） 津波シェルターへ避難	8:30 帰宅難民体験 11:30 カートンドッグ 15:00 ドラム缶風呂体験 16:00 サバイバル飯炊き	10:30 振り返り 12:00 昼食 13:30 閉講式 解散												
17:30 防災食体験 20:00 津波シェルター泊	19:30 停電体験 20:30 就寝													
活動の様子	<p>（1日目）</p> <p>県内外から小学校5年生～高校3年生までの多様な参加者が集まった。仲間づくりを中心としたアイスブレイクを行った後、災害時に役立つロープワークの学習を行った。高校生が積極的に小学生と関わり、ロープの結び方を教え合う姿が見られた。水で戻しただけの防災食は、塩気を含んでいて想像していたよりも随分食べやすいものだったことに参加者は驚いていた。</p> <p>夜は、今年の9月に完成したばかりの日本初の崖地用津波避難シェルターで宿泊した。また、布団を使わず災害時用アルミシートにくるまって寝た。閉鎖されたトンネル内にアルミのこすれ合う音が響き、なかなか寝付けぬ参加者もたくさんいたが、スタッフも含めて貴重な体験となった。</p> <p>（2日目）</p> <p>台風に刺激された秋雨前線の影響で、夜明け前から断続的な豪雨の一日となった。予定していた帰宅難民体験（徒歩による避難所からの移動）を中止し、バスで自然の家まで移動した。昼食作りのため屋外へ出たところで激しい雷雨となり、建物の中に避難となった。頭上から雷鳴が聞こえ、建物の中央に身を寄せ合って、ただ雷が通り過ぎるのを待ちながら、現実の天災は到底人の力では敵わないことを実感した。</p> <p>夕方には雷雲も去り、空き缶と牛乳パックを使った炊飯を</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div>													

	<p>行った。近年、缶切りを使う機会が著しく減少してきているため、空き缶をかまどにするための加工に苦労していたが、久しぶりの温かいご飯に、参加者一同笑顔が見られた。</p> <p>夜は、ブレーカーを落として停電の中で一晩を過ごす体験をした。昼間の疲れもあり、参加者たちは早々に眠りについた。</p> <p>(3日目)</p> <p>最終日は夜明けとともに起き出して活動を開始した。冷蔵庫が無くても保存がきく根菜類を中心としたけんちん汁と温かいごはんを作る炊き出し体験を行った。21名それぞれが自分にできることを考え、全員で協力して作り上げた朝食となった。今回、ボランティアのリーダーが参加していないことで、高校生の参加者が自然にリーダーシップをとり、小中学生に声を掛けたり、手を貸したりしながら三日間を過ごしていて、リーダー育成の観点からも有意義な事業だったと思う。</p>
<p>事業の成果</p>	<p>小学生から高校生までの幅広い年齢層の参加者が力を合わせて活動することは、お互いに学ぶものが多く、三日間の短い期間ではあったがそれぞれに成長が見られた。また、身近にあるものを災害時に役立てるためには、日頃から扱いに慣れておくことの重要性が実感できた。さらに、冷蔵庫が無くても保存がきく食材がたくさんあることも分かり、家庭に戻って防災の観点から台所等を見ることができるようになったと思われる。</p>
<p>事業の課題</p>	<p>できるだけ現実味のある被災体験をさせようとロールプレイを取り入れながら三日間プログラムを実施したが、参加者の中にはおもしろい体験を求めている者もいて、事業の目的とのずれがあった。</p>
<p>参加者の感想</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自助、共助の大切さや、南海トラフ地震の被害予想を知り、大学進学後はより深く防災について考えてみたい。 ・水で戻すだけのアルファ化米は、おいしくない想像をしていたけど、食べてみると案外おいしく食べられた。 ・久しぶりに温かい食べ物を口にしたときは、とてもおいしくて、ほっとした。災害時に温かいご飯を作ってあげられるように作り方を覚えておきたい。 ・今回のキャンプは班やリーダーのない初めての経験だったけど、これまでのキャンプより参加者のみんなと協力することができた。 ・今回いろいろな人と助け合ったように、本当の災害時にも地域の人とコミュニケーションをとって助け合おうと思った。

